

トホクのキュウリ栽培方法

発芽適温：25～30℃ 生育適温：20～30℃

土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；2年あける

1. 作物特性

キュウリは生育に応じて支柱やネットを用いて栽培する立ち栽培が主流ですが、地這栽培もできます。またキュウリは果実となる雌花が連続して咲く節成り型品種と、初めは雄花が多く咲きますが生育が進むにつれて雌花が多くなる枝成り型品種の2タイプがあります。節成り型品種は早くから収穫でき短期間で楽しみたい人や初心者などに向きます。多収を望む場合は枝成り型品種がおすすめです。つるを連続的に伸ばしながら果実も実らせるため、適切な整枝管理がポイントです。

2. タネまき

直径9～10cmのポットで約1cmの深さにタネを数粒まき、日当たりの良い場所で育てます。



発芽したら、早めに間引いて生育の良いものを1株残します。育苗中の水やりの時に1回程度、薄めの液体肥料をやると良いでしょう。しっかりとした苗作りが成功のポイントです。

3. 植えつけ

ウリ科野菜を2～3年作っていない畑を選びます。

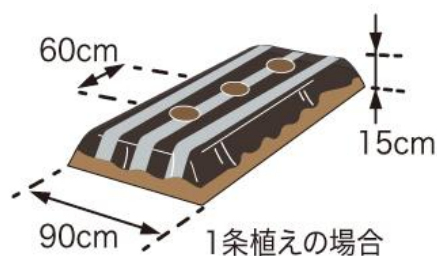
ウリ科野菜を2～3年
作っていない畑を選びま
す

たい肥 3kg
苦土石灰 100g
化成肥料 100g
(1㎡当たり)



雑草防除と地温確保、土壌水分保持のためにもマルチをして栽培するとよいでしょう。

アブラムシの飛来をできるだけ少なくするためにシルバーラインの入った黒マルチがおすすめです。

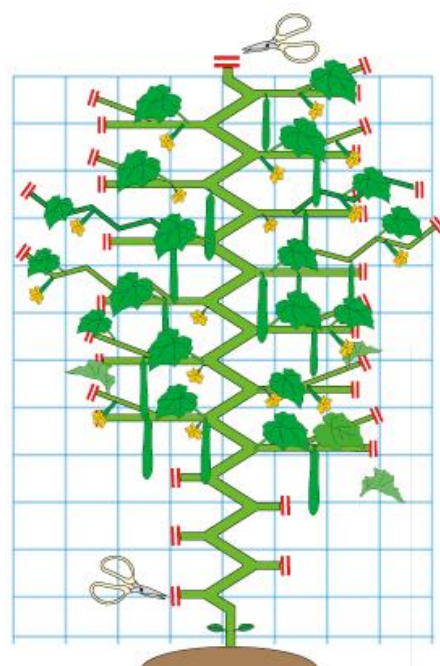


4. 栽培管理

立ち栽培の場合、なるべく早く支柱を立てネットを張ります。最初に伸びる太い枝（親づる）を慎重にネットに誘導し、絡ませながらつるを伸ばしていきます。



株元から5節までに発生したわき芽や雌花は早めに取り除き、はじめに伸びる親づるはネットの上のところ（1.8m弱）まで伸びたら摘心します。親づるから発生した子づるは2～3節で順次摘心し、子づるから発生する孫づるは1～2節で摘心します。



5. 収穫

果実は18cm以上になったら収穫します。収穫が始まったら定期的に1株あたり化成肥料で20gを株の周りに施します。収穫が遅れると食味が落ち、また株に負担がかかり連続して果実が成りません。若干小さめでも収穫していくと株も長持ちして長期間収穫できます。もし株の勢いがなくなって芯の伸びが弱くなった場合は、思い切って小さな果実まで収穫することをおすすめします。

